

がん治療委員会「活動状況と今後の展望」

委員長 金沢医科大学病院 高橋 喜統



がん治療委員会について教えてください。

🏠 がん治療委員会は 2005 年より特別委員会という形からスタートしております。当時は次々と新規抗がん剤が承認され、効果が期待される一方、副作用による患者被害が懸念されておりました。当時の県病薬会長の宮本謙一先生のお声掛けのもと、「石川のがん薬物療法の向上」を目標として、率先してがん治療に関する知識と技術を習得したい！という志の高い会員の方々が集まりました。初代委員長の橋本秀子先生、林誠先生といった偉大な先生方の後を引き継ぎ、委員の皆さんと試行錯誤しながら活動しております。



活動内容を教えてください。

🏠 基本的には委員会での意見交換とがん薬物療法セミナーの企画運営です。2020 年 10 月 18 日に開催されるセミナーで通算 36 回目となります。がん薬物療法に関する標準治療や支持療法、緩和医療、チーム医療における薬剤師業務などを学ぶセミナーです。過去には地域一体型委員会、石川県薬剤師会とコラボして、開業して間もない近江町いちば館で市民公開セミナーを開催したこともあります。最近では金沢地区だけでなく、能登地区や加賀地区でも研修会を開催し、会員の皆様が参加しやすい環境を作れないかといういろいろ試行しています。



メンバーについて教えてください。



🏠 現在メンバーは金沢地区を中心に、加賀地区、能登地区からも委員として参加して頂いております。総勢 14 名と委員会の中で最も多い委員数です。今年度は COVID-19 感染対策として WEB 委員会としました。石川県は南北に長く、遠方からの委員会への参加が負担だという意見がありましたが、WEB での意見交換は大変有用だと感じました。こういった参加が可能となっておりますので、是非、能登地区、加賀地区からの委員の参加希望をお待ちしております。



活動で大変なことは何でしょう？どんなことが経験できますか？



☞ セミナーの内容の企画立案ですね。その時のがん治療について重要なこと、話題となっている新しい治療や副作用対策をテーマにすることがあります。新しい治療については、がん関連の学会へ参加して最新の治療についての情報収集が必要で、講師を見つけるのが大変です。過去には学会会場で講演直後の講師に講演依頼をしたこともあります（笑）。第36回セミナーのテーマは「コロナ禍におけるがん治療について考える」としたのは、委員会にて大変なこんな時こそ会員間で情報共有し、医療の実施が困難な状況であっても、がん患者さんに最適な治療が受けられるようにするにはどうしたらよいか考える研修会がいいだろうということで決まりました。準備等が大変ではありますが、企画側として関わると大変勉強になりますね。委員の中にはがん治療委員会発足時にはまだ制定されていなかったがん関連の資格である「がん専門」、「外来がん治療認定」、「緩和薬物療法認定」などの資格を取得した方が沢山おられます。また講師の先生とセミナー後の懇親会でさらに詳しいお話をお聞きしたり、裏話を聞けたりとか、つながりが広がり楽しいこともあります。



これからの展望を教えてください？

☞ 石川県には「がん」に関する研究会が数多くあり、石川がん専門薬剤師チームが企画する研修会もありますので、テーマが重ならないように配慮しております。がん治療委員会では、がん治療にかかる基本的な知識と技術の習得を目的とし、その時期においてタイムリーで、会員の皆さんが求めるテーマをこれからも企画していきたいと思っています。患者さんの安全確保という観点から、今後ますます薬薬連携が重要となっておりますので県薬剤師会との連携も進めたいと考えております。研修会後にアンケートも実施しておりますので、是非アンケートにご協力いただき、会員の皆様と一緒により充実した研修会を企画し、石川県の薬剤師のがん治療に関する知識と技術の向上につながるようこれからも取り組んでいきたいと思っています。